



2021年3月

第309号

The Service Club of The YMCA

## 東京八王子 ワイズメンズクラブ

会長 花輪 宗命  
副会長 山本 英次  
書記 長谷川あや子  
会計 小口 多津子  
直前会長 並木 信一  
担当主事 中里 敦  
プリテン 山本 英次・茂木 稔  
大久保 重子

国際会長 Jacob Kristensen(デンマーク) 主題 価値観、エクステンション、リーダーシップ スローガン「命の川を信じよう」  
アジア太平洋地域会長 David Lua(シンガポール) 主題:「変化をもたらそう」  
スローガン:「奮い立たせよう」  
東日本区理事 板村 哲也(東京武蔵野多摩) 主題:「変化を楽しもう」  
副題:「助け合い、分かち合い」  
あずさ部部長 御園生 好子(東京サンライズ) 主題:「変わるに挑戦!」  
クラブ会長 花輪 宗命 主題:「すべてに感謝」

### 巻頭言

### 3月例会プログラム

#### (Zoom 例会)

(担当: B班 : 花輪、久保田、並木真、福田、望月)

日時: 3月13日(土) 18:00~20:00

司会: 久保田

Zoom 操作 中里主事

開会点鐘 会長

ワイズソング 一番のみ 一同

ワイズの信条 一同

ゲスト・ビジターの紹介 会長

聖書朗読・祈禱 並木 真

卓話:「東日本大震災から10年」 清水弘一 氏

仙台 YMCA 学院理事長(石巻広域クラブ)

東京 YMCA 報告 担当主事・中里

A Happy バースデイ 会長

(菅野牧夫、長谷川あや子、茂木 稔、茂木洋子)

連絡事項 会長

各 担当

閉会点鐘 会長

### 第23回チャリティコンサート中止の顛末記

久保田貞視

昨年3月の第22回チャリティコンサートは、すべて準備完了した時点で新型コロナ感染により会場が使用できなくなり、中止を余儀なくされました。昨年の段階では演奏家には来年への延期として、チケットを購入していただいたお客様にも払い戻しか延期と申し上げ、払い戻し希望者には返金しました。

今年はコロナ禍が減少傾向にあったため再度演奏家にもお願いし、会場も予約、八王子市にも名義後援をお願いし、チケット・チラシを印刷しました。しかし、12月にはコロナの感染が急増し、政府は首都圏に対して1月7日から2月7日まで、緊急事態宣言を発出され、更に3月7日まで延長、小池知事も不要不急の外出は自粛するように呼びかけ現在に至っています。今年のチャリティコンサートは3月13日で、昼間は演奏可能となっても観客は殆ど高齢者であり感染リスクもある

### 先月の例会ポイント(2月)

在籍	13名	切手(国内・海外)	40g
メン	12名	累計	1647g
メイキャップ	0名	現金	0円
出席率	92%	累計	0円
メネット	1名	スマイル	0円
Zoom参加者		累計	86,773円
ビジター	0名	オークション	0円
ひつじぐも	0名	累計	0円

### 今月の聖句(2021年3月)

何事でも神の御心に適うことを願うなら、神は聞いて下さる。これこそ私たちが神に抱いている確信です。私たちは、願い事を何でも聞いてくださると知れば、神に願ったことは、すでになんげられたと知るので。

(新約聖書・ヨハネの手紙 一 5:14~15)

ことより、チケットも売りづらく中止することにいたしました。既に関係者には中止の連絡をするとともに、昨年度のコンサートのチケット代金は寄付としてお願いし、演奏家にも予定額の半額を準備費用として支払いました。その残額を2等分し、JCBLと東日本大震災の祈りのために寄付いたしました。

当クラブのチャリティコンサートは1997年11月に第1回を開催し、2019年3月まで21回継続しました。これまでの演奏家は、ソプラノ歌手とピアノ伴奏が多いのですが、ヴァイオリンとピアノ、シャンソンとカンツォーネ、ソプラノとバリトンあるいはカウンターテナーとの共演、ジャズ演奏、カンボジア舞踏、ソプラノと講読などとバラエティに富んだ演奏会を開催してきました。

これまでの寄付は、JCBLと東日本大震災被災者支援の合計額は7,039,074円の金額になりました。

今後、チャリティコンサートを開催するかはクラブの活動として大きな比重を占めているのでなんとか継続したいところです。ただ、現在の人員でチャリティコンサート開催が可能か、チケットは十分販売できるのかを検討し、可能であったとしても寄付先を見直すかどうかを再検討する必要があると思われる。

## あずさ部第2回評議会に参加して

長谷川あや子

あずさ部第2回評議会も Zoom で行われました。第1回評議会の時は急遽 Zoom になったため、顔合わせ程度でしたが、第2回はあずさ部のスタッフの皆さんが綿密に準備をされたお陰でとても密度の濃い充実した内容でした。距離を越えて参加することができる Zoom ならではの利点から、次期理事の大久保知宏さん(宇都宮)、仙台からは清水弘一さん(石巻広域)のお顔が見え、思わず「お久しぶり！」と声を上げました。開始前のおしゃべりも緊張をほぐすひとときとなりました。

第2回評議会の議案「2021-22 年度あずさ部次期部長承認の件」…富士五湖クラブ後藤明久さん。「2021-22 年度あずさ部役員承認の件」…次期の部役員・クラブ会長の承認。次期の予定としては、部大会 10 月 16 日(土)、評議会第1回 7 月 17 日(土)、第2回 2022 年 2 月 12 日(土)、第3回 2022 年 5 月 14 日(土)ですのでよろしくお願ひいたします。「あずさ部規則修正の件」…部会を部大会に修正。

報告事項として、東日本区法人化について委員長の宮内友弥さん、東日本区理事板村哲也さん、委員の大久保さん、清水さんから懇切丁寧な説明がありました。十分にその意義を考え、日頃の活動にも活かしたいと思います。続いて部長活動報告、第2回東日本区役員会報告、あずさ部収支(中間)報告、事業主査活動報告、クラブ活動報告、部エクステンション報告がありましたが、時間に追われて紙面を読んで頂くだけになったことは残念でした。閉会式の前に、1 月に亡くなられた甲府 21 クラブの茅野崑さんを偲び黙祷が捧げられました。

茅野さんは八王子クラブにとってもご縁の深い方でチャリティコンサートにも度々いらして下さいましたし、辻直治さんとはハイ Y 時代からのご友人でした。どうか天国で見守って下さい。コロナの収束を待つだけでなく、新しい様式に挑戦し励まし合いながら沢山の方が参加できたことに喜びを感じます。これからもみんなで力を合わせてよい方法を編み出し、希望を持って進んで行きたいと思います。手を携えて歩いて行きましょう。

## 次期クラブ会長・次期部役員研修会報告

次期会長 山本英次

Web 会議システム Zoom は、東日本区 LT 委員長の山下 真氏(十勝)の懇切丁寧な案内に従って、緊張感にあふれる中に始めての試みとして、「東日本区次期クラブ会長・次期部役員研修会」が3月6日(土)午後1時30分から始まった。

国の緊急事態宣言の2週間延長が昨夜遅くに菅総理から発表されたが、「災い転じて、福となす」の通りに56名もの参加者が一堂に会する事が出来た。PC の画面の中に知った人、初めての人が面前に会する事は奇跡である。

開会点鐘と開会の挨拶を東日本区理事・板村哲也氏が重々しくされて、これからの4時間になる会議の始まりである。

研修Ⅰ 東日本区の現状を現理事・板村氏が説き、次期理事を予定されている大久保知宏氏(宇都宮)による「次の若い世代への繋がりとして、絆を深める事の大切さを話し、法人化に向けてのメリットを生かす術を模索してゆくことを説いた。チームプレイヤー、コミュニケーターの有り方が他人の話に注目でき、他人の立場を尊重することが関係構築の要素であると力説された。大いに納得できるお話であった。

研修Ⅱ、研修Ⅲは、次期事業主任や委員長の抱負である。ワイズ活動の原点である「ワクワクドキドキ」「楽しくなければワイズでない」「魅力あるイベントを！」が発表されて納得!

研修Ⅳは、「部長を囲んで」。各部会の次期部長を囲んで、その方針を聞きながら、コロナを乗り越えるためのより良い部、クラブ活動の充実のために交流や実例報告、意見交換の為の時間である。あずさ部は、八王子クラブから長谷川あや子部長が登場。あずさ部10クラブの次期会長を始めとして、書記・久保田貞視メン、会計・並木信一メンに事業主査が勢ぞろいした。因みに、次期会長を紹介すると、甲府・石川和弘氏、東京西・鳥越成代氏、東京武蔵野多摩・渡辺大輔氏、松本・倪秀成氏、東京サンライズ・小山憲彦氏、甲府 21・米長晴信氏、東京たんぽぽ・服部節子氏、富士五湖・原 俊彦氏、長野・森本俊子氏と末席を汚して八王子からの山本。それぞれが次期会長としての大きな抱負を語り、それを纏めて(2)全体交流の場へ繋いだ。Zoom を通して遠方のクラブや部会との交流ができ、身近に顔を見ながら話を直接聞けることで何よりも緊張感を最後までもって参加できたのが良い経験となった。

## 2021-22 あずさ部部长を受けて

長谷川あや子

1997年に発足したあずさ部は新宿～松本間を結ぶ特急あずさ号にちなんで命名されました。9両編成のあずさ号、当時、八王子クラブは末っ子でした。まもなく東京たんぼぼ、富士五湖、長野クラブが産声を上げ、武蔵野と多摩が合併、セントラルが解散、そして歴史ある山手クラブが惜しまれながら解散となり歴史の流れを感じますが、現在は10両編成、個性あふれたクラブがそれぞれの持ち味を生かした活動を続けています。

部員により部長は各クラブ輪番制で現在三周目となりました。私は眞野メン、久保田メンに続いて八王子クラブ三代目の部長を拝命いたしました。あずさ部は初代から現在に至るまで毎年新しい人がその重責を担ってまいりました。これはあずさ部にとって誇らしいことだと思います。東京、山梨、長野にわたる広域の部として出発したため、一体感を持つために部もクラブも知恵を絞りました。評議会も役員だけでなく全員で参加しようというメンバーに声をかけ、ホストクラブは開催する評議会にふさわしいネーミングを考えたり、会議終了後のエクスカージョンを計画したり、労を惜まず汗を流し、会を盛り上げてきたものです。あずさ部ブリティッシュ共同企画として初代から10年の部長が原稿を寄せたこともありました。このように前の世代が真摯に道を拓き種を蒔いて下さったお陰で今の私たちがいます。

現在はコロナウィルスの影響で思うに任せぬ状況ですが、コロナが収束するのを待つだけではなく、新しいことにも挑戦し共に道を切り拓いて行きたいと思えます。思いやりの心を忘れず、誰一人取り残される人がいないように助け合ってください。"ワイズにいてよかった"という思いを育てていきましょう。

3月6日、次期クラブ会長・部役員の研修会がZoomで行われました。あずさ部は他部から羨ましがられるくらい出席率の良さでした。元気で明るいあずさ部にしたいという皆さんの思いに一番励まされた私です。微力ですが全力を尽くしますのでどうぞよろしくお願いいたします。

## 東日本大震災被災者への支援状況

東京八王子クラブ 久保田貞視

2011年3月11日午後2時過ぎに発生した大地震で東京地区は震度5強で公共交通はすべて止まり、大混乱に陥りました。この地震の震源地は三陸沖でマグニチュード9.0(震度は7)と日本最大規模の地震で、東北地方の太平洋岸は地震及び大津波で膨大な被害を受けました。死者・行方不明18,428人、建物全壊・半壊40万戸以上で、避難者は47万人。2020年1月末現在も避難者は48,000人と、依然として支援の必要性は残っています。

地震の直後、当クラブとして早速、被災者の支援策を協議し、メンバーの高齢化のため直接ボランティアとしての参加は困難のため、まず、八王子駅前中央大学ひつじぐもの学生の協力を得て街頭募金を実施、更に東京YMCA西東京センターの国立駅前での街頭募金には殆ど毎回数人で参加し協力しました。

加えて2012年3月11日からは元メンバーで関西地区に行かれた奈良さんの音頭で「希望の凧」揚げを当クラブも毎年継続しました。この運動は国内だけでなく海外へも広がり、東日本大震災復興の願いの凧あげとなりました。

しかし、クラブとしての資金面での最大の協力は、1998年から継続していた地雷廃絶のためのチャリティコンサートです。第14回目が2011年3月の予定でしたが、東日本大震災で中止を余儀なくされました。急のためチケット購入者でワイズの方には寄付金としてお願いし、当日来場者には返金と共に、地雷廃絶キャンペーン、東日本大震災と分けて寄付金をお願いしました。さらに、IBCの高雄ポートクラブから93,000円の振り込みがあり、仕訳けた寄付金のうち東日本大震災向けは400,176円に上りました。翌年からは、チャリティコンサートの寄付金を地雷廃絶キャンペーンと東日本大震災被災者支援に二分し、2019年3月まで続けました。また、昨年・今年度は再びコロナ禍のためコンサートを中止し、昨年チケットの販売代金の残金は寄付をお願いし、その二分の一の40,000円を加え、東日本大震災被災者への寄付金総額は、1,588,176円に上り、すべて東日本区の震災支援の口座に振り込みました。更に2019年度は85,000円を東京YMCAの震災支援の口座に振り込んでいます。

加えて、東日本大震災被災者支援としては、2011年8月に、盛岡YMCA宮古ボランティアセンターで、「焼きそば・たこ焼き」の一日スポンサーを募集しており、一日分の材料代30,000円を送金し、東京八王子ワイズメンズクラブ主催の「焼きそば・たこ焼き」を被災者に提供しています。このためチラシまで作成いただき盛岡YMCAには感謝しています。あれから早くも10年経ちました。



高尾の春

## 八王子クラブの「EMC を考える」

2021.02.27—ZOOM 例会にて、並木信一

(2020年6月 八王子クラブ年度活動報告より—会長として)

＜クラブの課題＞

- a. クラブ設立から25年がすぎました。会員数は設立時17名、最多の2009、2010年に24名でした。新年度のスタートは13名となりました。会員の平均年齢も、設立時より約20才多い78~9歳となっています。クラブの将来像をどのように描いていくか、クラブ内で正面から考えるべき課題となっています。
- b. 言うまでもなく、会員増強、会員基盤の強化がなによりクラブの課題であることは自明となっていますが、現在のクラブに新会員をそのまま迎え入れても持続性は見込めません。クラブの在り様を根本から見直すことで、前向きなクラブ運営への転換をはかるか、或いは現状の延長上にクラブの延命をはかるか、いずれかの選択が必要と考えています。
- c. クラブの働きを必要とする課題を「地域」に見出し、その課題解決に共感する人やグループを地域で発掘し協働することで、地域に根差したボランティアグループとなり、新規会員の獲得、会員増強につながるのではないかと考えています。

(2017年10月 あずさ部会員増強アンケートへの回答より—クラブ EMC 担当として)

1. 会員増強は必要です。

\*理由は…会員一人一人の成長を可能にするダイナミックな関係性の構築。活動目標達成のエネルギー増強のため。

\*当クラブに必要な年齢層は？

年齢層を問わず、諸分野で現役として活動をし、進化する社会の風を多方面からクラブ内に運んでくれる人。あえて年齢層をあげるとすれば、40~60代。20~30代も必要だし、交流は欠かせない。しかし、クラブの内側に招き入れるのは現状ではむづかしい。ややもすると関係性が一方的、依存的になり包括しきれない。しかし、地域でアクティブなボランティア活動を行うにはリタイア世代も多数必要。

2. 当クラブの強みは…

数は少ないが、女性メンバー、及びメネットがアクティブ活性化に貢献している。地元の中央大学 YMCA との継続的な交流がフレッシュな空気を運んでくれる。

3. 当クラブの弱みは…

会員は親しい関係にあるが、クラブが発展するために不可欠な目的の共有に難がある。従って、クリエイテ

ィブな活動を発想する手掛かりを共通には持ち合わせてはいない。また、長年の交流があっても、一人一人を十分に知り合えてはいない。アクティビティについては、活動課題の開発・発見に能動性を欠き、受動的。

4. 当クラブの特徴は…

クラブの地元で、連携できる都市YMCA がないが、大学YMCA があるので交流出来、若々しい息吹に触れることができる。

5. 5年後10年後にこうありたいと望む姿

イメージ : 地域に、生きていくこと自体に、困難を抱える子どもや大人が多くいると思われる。このような人々の存在をみだし、この人々に寄り添うことの出来る場を作りこれを運営出来るクラブ。

たとえば : 家庭的な事情で欠食している子どもに食事を提供したり、遊びの相手をしてあげられるような「子ども食堂」の運営など。

パートナー : YMCAの小さな活動拠点ができ、地域に数多い学生のボランティアが多数リクルートされる。

6. メンバー数の理想は何名ですか

30~40名。(適切なコミュニケーションが維持でき、しかも複数のプロジェクトに対応できるだけの会員数)

7. 会員増を可能にする、基本的に必要なこと。

①クラブの目的の掘り下げと共有努力。②会員が互いに十分に知り合い強い信頼関係を築く。③置かれた地域の課題に鋭敏に向き合う感性をもつ。④会員増強は目的でもあり、結果でもあることを認識すること。

(2016年6月 あずさ部会員増強活動報告より—主査として)

1. 会員増強に関して、各クラブ宛てのアンケートを行いその結果を次のように集約した。

a. 会員増強は、目標であるより日常のクラブ活動の結果でもある。

1) クラブの存在自体を自己目的化しないで、今日における、人間的、地域的、社会的な課題に鋭敏な感性をもって取り組むことを使命として確認すること。

2) クラブを地域から孤立させないで、課題を共有しうる地域の個人や団体と柔軟に連携、協働することでクラブの認知度が向上し、クラブの地域的受容と共感者の増加につながる。(ユネスコ、ボーイ・ガールスカウト、JC等々)

3) YMCAとの不断の協働・情報交流を。Y会員の転居やユースボランティアのOBの情報等、人的情報を共有する。ワイズメンはY会員となるのが望ましい

b. クラブの強み、弱みを常に認識し、強みは積極的に生かし、弱みと思えることは、強みに転化する方策を考える。(ex. 会員が高齢であることを弱みとするクラブがおおい。しかし、此の事は弱みとばかりは言い切れない。高齢化も武器にできる)

2. 地域の人々から、自分も会員となって共に働きたい、と思わせる、社会に関わられたクラブ作りを日々心がけ、日活動に延長上に会員増強を位置づけましょう

**(2018年8月「2018 - 2019 八王子クラブ会員増強活動計画について」よりEMC担当として)**

#### I 八王子クラブは今！

##### A. クラブの現状について認識の共有

1. 会員並びにクラブ活動現況(会員間の関係性、例会出席率、等)
2. 例会プログラムの内容点検(見直し)
3. 例会等、集会行事の間をつなぐ活動
4. YMCAとの距離(関わり)
5. 友好団体との連携
6. 地域社会の課題との関わり 他

##### B. 上記の認識に基づくクラブの強みの発見

C. 地域課題と結ぶ新規プログラムの可能性(1. 自主、2 協働、3協力) ex. 子ども食堂への協力等

#### II 会員増強の目標と方法

A. 会員増強目標 年度内2名の会員増を目標にします。

B. インベティションキャンペーンの徹底

年に一度は例会に友人、知人、家族等、を帯同する等

C. 例会プログラムと会員増強の連携 (ex. 会員候補となりうる人を卓話者に招く等)

III 9月例会に報告できるよう、会員アンケートを行います。

**(2020年8月 クラブブリテンより「EMCについて」-EMC担当として)**

私は、4年前のあずさ部の「会員増強アンケート」に次のように書きました。(省略)この思いは今も変わることがありません。

\*クラブの目標—5年後、10年後にこうありたいと望む姿

▼EMCには、クラブの目標なり、将来像の共有が不可欠なので、今年度内に一度は此のことをテーマにした協議の機会を設けたい。

## 中大ひつじぐも便り

ひつじぐも ワイズ係 渡辺伊純

日ごとに春めいてまいりましたが、皆さまお変わりございませんでしょうか。ひつじぐもでは3月から4月にかけて行われる新歓活動の準備に取り掛かっています。

対面での活動が制限されているため、SNS を利用したオンライン新歓が中心になる予想です。実際に新入生と交流し、ひつじぐもの活動を紹介できないのは残念ですが、オンライン新歓だからこそできることもあると思います。工夫しながら今年の新歓活動も頑張りしたいと思います。

最近ひつじぐもでは、Instagram の活用に力をいれています。2週間に1度、部員たちが関心のある社会問題や、環境問題についての投稿を行っています。11月から始まったこの活動は、2年生を中心に行っていましたが、2月に初めて1年生の部員2人も参加を希望してくれました。参加してくれた2人のうち1人は、ヴィーガンについての投稿を作成してくれました。健康、倫理、宗教的側面からヴィーガンである人もたくさんいます。日本よりも外国にヴィーガンの方が多いのが現状です。ますます進んでいくグローバル社会では、自分とは違った考え方や、生活習慣を持つ人々を理解することが大切になってくると思います。ヴィーガンについて知ることができる良い機会になりました。2人目の部員は、BCPと災害対策の関係について投稿を作成してくれました。BCPとは、事業継続計画の略語であり、災害が起きたときに被害をどのように最小限に抑え業務復旧に努めるかを示した計画です。コロナ禍で、エッセンシャルワーカーとして働いてくれている物流業者のことについて考えられる興味深い投稿でした。是非皆さんも、ひつじぐものInstagramから投稿をご覧ください。

花冷えの折、くれぐれもご自愛ください。

## 西東京センター便り

YMCA 西東京センター長 中里 敦

三寒四温を繰り返し、春の兆しがそこかしこに見えるようになってきました。春の温かさが待ち遠しく感じます。

緊急事態宣言が 21 日まで延長となりましたが、春のプログラムに向けて準備は引き続き進めています。キャンプ、スクール、短期水泳など順調にできることを願うばかりです。そんな折、春のプログラムに関わるスタッフのキックオフがあり、奨励を頼まれました。話が不慣れなうえに奨励ともなると何を話そうかとさんざん迷いました。結局、YMCA に導かれたきっかけになったことやキリスト教を信じるきっかけについて証のような話をしました。

聖書は、私が働くうえで大切にしている個所の一つで、「テサロニケの信徒への手紙 5 章 23 節」です。この箇所は YMCA が求めるスピリット・マインド・ボディの調和のとれた全人的成長について語られています。

大学生の時に YMCA のリーダーをしていて、ある知的障がいのあるメンバーから大切なことを教わりました。彼と接するのは、急にパニックになったり、他人を叩いたり困惑することばかりでしたが、ある日、困惑しながらもパニックになっている自分を助けてほしいと懇願する彼から、今救えるのは自分しかないと感じることがありました。これは、言葉で教えられて分かるものではなく、人の力を超えて体で感じたものでした。そしてその時に自分が成長させられていることを実感しました。神さまの導きを感じたのもこの時です。神さまから与えられた霊(スピリット)を大切にできるマインド(知性)とボディ(身体)があつてこそ隣人になれると思います。そのような社会が神さまが求めている世界だと感じます。これが障がいのある彼から教わった大切なことです。

## 高尾わくわくビレッジ便

高尾わくわくビレッジ 館長 菅野牧夫

緊急事態宣言が昨日更新され 3 月 21 日(日)まで時短営業が延長されることになってしまいました。今日は予約を受けているお客様への変更事項の連絡でスタッフたちはフル回転で電話をしています。またこれで宿泊するお客様が減ってしまうかと思うと残念でなりません。今年度は新型コロナウイルスに引掻き回された 1 年間でした。

先日の例会でワイズの皆さんで作った花壇がどうなっているかという話が出ていました。今日ロータリーの花壇の様子を写真に撮ってみました。スイセンの葉が出てきていました。チューリップの葉っぱもいくつか確認することができました。ついでに原っぱを一回りしてみました。知らない間に季節は春に変わり始めていました。梅の花が満開を迎え見ごろになっています。昨年 11 月にかいぼりをしたビオトープでは先週カエルの卵が産みつけられているのを確認していましたが、今日覗いてみると小さなおたまじゃくしがたくさん泳いでおり、先週確認している卵たちはほとんどなくなっていました。

季節はどんどん移り替わってきています。もう少しするとモクレンや桜の花も咲きだし、木々の葉っぱも芽吹き始め、春本番になってまいります。昨年は、この命に満ち溢れた季節と緊急事態宣言が重なってしまい、たくさんの人たちの目に触れる機会が無くなってしまいました。今年は、去年春を満喫できなかった人々も、去年の分も合わせて春のわくわくする気持ちをわくわくビレッジで感じてもらいたいと思っています。それができる世の中であることを願って…

### 今月の聖句によせて (2021 年 3 月)

「かみさまへの手紙」(現題・CHILDRENS LETTERS TO GOD)は、アメリカで出版され、日本では、谷川俊太郎の訳で出版されました。子どもたちの手書きの筆跡がそのまま写され、訳詩が添えられています。神様への素朴な願い、語りかけが、懐かしくも、羨ましく、大切な何かを思いださせてくれます。いくつかをご紹介します。

“だいすきな かみさま

うちゅうひこうしが うちあげられて、なんどもなんどもせかいをまわるなんて、すごいとおもいます。どうか ぼくのうちに ついらくさせないでください。 あなたのともだち ノーマン

“かみさま こどもに おかあさんとおとうさんが ひとりづつ いるっていうのは とてもいいね。それを おもいつくの に ずいぶんじかんが かかりましたか? グレン

“かみさま ぼくは あなたが だいすきです。とっても しんせつなんだもん。ぼくも あなたみたいに いいことします。ぼくは みんなにしんせつです。 おかあさんにも おとうさんにも ふたりのいもうとにも。 かみさまっておもしろいでしょうね。みんなにすきになってもらえて。 けいぐ トーマス “

“かみさま あなたの せいしょは すごく おもしろい。ぼくは エス・エフしょうせつがすきなんだ。あなたは、とてもいいアイデアをいろいろもってる。 どこで みつけたのか しりたいものだ。 いどくしゃの ジミー “

きっと、この子どもたちの願い、問いかけは、神様の御心に適い、神様は聞いて下さるのでしよう。

並木 信一

## 今月の例会報告 2 月度

高尾わくわくビレッジ便り 撮影：菅野牧夫さん

〈報告〉

2021 年 2 月第一例会(ZOOM 例会)

日時:2021 年 2 月 27 日(土)18:00~20:00

(緊急事態宣言が出て、北野事務所の夜間使用が出来ず、初めての Zoom 例会)

担当 A 班:菅野・小口・中里・長谷川

出席:大久保・菅野・久保田・小口・中里・並木信一・並木真・



春の小川にメタカ



高尾の早春

東京 Y・西東京センター  
〈主な行事予定〉

- ◆AT1 エンジョイ&チャレンジスキーキャンプ：2021 年 3 月 26 日~30 日
- ◆AT2 ユーススキーキャンプ：2021 年 3 月 26 日~30 日
- ◆AT3 東山荘ネイチャーキャンプ：2021 年 3 月 28 日~30 日

### 3 月の誕生のメンバー

茂木	稔さん	3 月 11 日
菅野	牧夫さん	3 月 15 日
並木	雍子さん	3 月 19 日
長谷川	あや子さん	3 月 19 日
茂木	洋子さん	3 月 23 日

### 3 月例会卓話者の紹介 清水弘一氏 (石巻広域クラブメンバー)

1941 年(昭和 16 年)東京に生まれる。終戦の年宮城県に移住し、大手建設会社勤務の後、現在、杜の都仙台市に居住。1981 年熱心なクリスチャン夫婦に紹介され、仙台青葉城クラブに入会、1983 年仙台 YMCA の維持会員となる。以後、1986 年クラブ会長、1993 年日本区 EMC 事業主任、2008 年第 12 代東日本区理事、2010 年横浜国際大会プログラム委員長。2011 年東日本大震災を経験し被災地の支援活動に当たる、2016 年石巻広域クラブのチャーターメンバー、今年度は書記を担当、仙台 YMCA では現在、常議員会議長、YMCA 学園理事長を務める。

趣味：旅行、スポーツ観戦、美術館巡りなど